



研修紹介 次年度につながる英語授業の改善

本市では、平成22年度から「ひろしま型カリキュラム小学校英語科」を実施してきました。昨年度から令和2年度の新学習指導要領全面実施に向けて、これまでの「小学校英語科」の取組の蓄積を十分に活かしつつコミュニケーションの素地（第3・4学年外国語活動）や基礎（第5・6学年外国語）となる資質・能力の育成を目指した授業改善に取り組んでいます。

本号では、そのポイントや活動の具体を中学年と高学年に分けて紹介します。ここで紹介する内容は小中連携の観点からも重要な視点になります。参考にしてください。

外国語活動の授業（段原小学校 第4学年 大坪 裕子 教諭）

3・4学年の外国語活動では、外国語による言語活動（聞くこと、話すこと）を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を育成することを目指します。

そのためには、児童が、目的や場面、状況等に応じて、既習表現等を適切に活用しながらコミュニケーションを図ることが重要です。

このコーナーでは、「コミュニケーションを行う目的・場面・状況の明確化」に着目して取り組んだ事例を紹介しします。



ポイント ○ できる限り日常生活に則した具体的な場面設定をする。

単元名	Let's Try! 2 Unit5 「Do you have a pen?」おすすめの文房具セットを作ろう
めあて	持ち物についてたずねたり答えたりしよう ~家族への文房具セットづくり~
場面設定	家族の人(一人)に文房具セットを作って贈ろう

学習活動の概要

- ① 文房具の単語にふれる。(単語練習・ペアワーク)
- ↓
- ② 文房具を買う際に使う表現に慣れる。(発音練習)
- ↓
- ③ 誰にどんな文房具を買うか考える。(ワークシート)
- ↓
- ④ 店員役とお客役に分かれてやりとりする。
(コミュニケーション活動)



買いたい文房具
英語で何て
言うのかな？

お母さんに何
を買おうかな？



お客役

Do you
have a
pen?

Yes, I do.
What color
do you like?

店員役

プレゼントした人からのサイン

It's nice!
from mother

振り返り
児童の

- ・ お母さんはよくペンを使うので選びました。お母さんが喜んでくれるとうれしいです。お母屋さんをしたので、いっぱい英語を話せたと思います。次は違う英語でお店屋さんをしたいと思いました。
- ・ 今までの英語の中で、一番英語が話せたし、みんなでやったのでとても楽しかったです。

授業者
コメント

- ・ 場面設定を考えると、児童が楽しんで意欲的に活動を行うので、その重要性を実感しています。今後も大切にしていきたいです。

担当指導
主事より

- ・ 大坪先生の授業のポイント、家族へ文房具セットを贈るために買い物をするという日常生活に則した場面設定をしたことで、児童がコミュニケーションを行う必然性を作り出していることです。児童が目的意識を持ち、家族の好きなものを考えながら何を買うか決め、主体的に学ぶことができていました。また、家族のために買った文房具を実際に本人にプレゼントし、コメントを書いてもらうようワークシートの工夫をすることで、児童の活動への意欲を高めることができました。

5・6学年の外国語科では、目標として設定されている5つの領域（「聞くこと」「読むこと」「話すこと[やりとり]」「話すこと[発表]」「書くこと」）のうち、主に「話すこと[やりとり]」の育成を図るため、**スモール・トーク**が位置づけられました。
スモール・トークを行う主な目的は、以下の2点です。

- (1) **既習表現を繰り返し使用**できるようにして、その定着を図る。
- (2) **対話を続けるための基本的な表現**の定着を図る。

このコーナーでは、スモール・トークの実践例を紹介します。



ポイント

- ・ 現在学習している単元及び既に学習した言語材料を**繰り返し使用**できる機会とする。
- ・ 児童が興味・関心のある身近なトピックで、自分自身の本当の気持ちや事実を**その場で**伝える。
- ・ 表現内容のやりとりを**楽しませる**。
- ・ **対話を続けるための基本的な表現**を指導する。
- ・ 児童が伝えたくても英語で**表現できなかったことはないかを確認**する。



スモール・トークの指導過程

(1) 教師と児童でやりとり

話題の提供
モデルの提示



(2) 児童と児童でやりとり

まずやらせてみる

How was your weekend?



どうい
んだった
け…?

(3) 指導

- ・ 言えなかったことを既習表現と結び付けられるようヒントをだす
- ・ みんなでどう表現すればいいか考えさせる

幼なじみって
どう言うの？



どう言えば
いいかな？

favorite
friend !

(4) 相手を替えて児童と児童でやりとり

既習表現を意識して活用させる

That's great!



I ate yakiniku.
It was good.

児童の振り返り

- ・ 自由に英語を話せる時間があつていい。分からない言葉（英語で言いにくい言葉）も**みんなと交流していたら、分かる言葉**がたくさんあるからいいと思う。
- ・ 授業では、「始めにこれを言ってこう言って」などという、発言するだいたいのシナリオが決まっているのに対して、この時間は「**自分でこう言ってから、こう言う**」というのも**決められる**し、テーマは決まっても、その範囲内なら何を言ってもいいというのは**前の授業の復習**になるし、**何度も繰り返すので忘れにくくなる**と思うのでいいと思います。

授業者コメント

- ・ **対話を続ける表現**を教えることで、一言感想を加えたり、質問したりするなどやりとりに深まりがでてきました。どういう表現ができるかを**みんなで一緒に考える**ところは、児童も私も楽しんでやっています。今後も続けていきます。

担当指導主事より

- ・ 斉藤先生、山田先生の授業のポイントは、① スモール・トークの指導過程(1)で、教師が英語で示すモデルから、児童にやりとりの**意味や方法を推測させる**こと、② 指導過程(2)で、実際にやらせてみることで、伝えたくても**言えない表現がある**ことを児童に**実感させる**こと、③ 指導過程(3)で、「あ、そうか。**そう言えばいいんだ**」と**気づかせている**ことです。また、④ 英語表現をすぐに教えるのではなく、『**児童と共に考える**』ようにすることも大切です。

祇園小学校では、児童と教師が楽しみながらスモール・トークに取り組むことで、英語で表現する力が高まっています。